

登録日時	(事務局記入)	登録番号	(事務局記入)
行動 チーム名	巧水(たくみ)スタイル推進チーム		
行動主体	<p>全体推進リーダー：独立行政法人 建築研究所 上席研究員 山海 敏弘氏</p> <p>&lt;産&gt;日本衛生設備機器工業会、日本バルブ工業会水栓部会          &lt;学&gt;山海 敏弘氏(独立行政法人 建築研究所 上席研究員)          &lt;官&gt;松山市、高松市、北九州市          国土交通省水資源政策課、経済産業省日用品室</p>		
行動内容	<p>気候変動による渇水リスク増大のおそれや、二酸化炭素排出量削減の必要性から、「水を賢く使う社会」への転換が必要とされている。</p> <p>2010年7月30日開催の「水の週間記念シンポジウム」において、節水型ライフスタイル普及のため、「巧水(たくみ)スタイル」をキーワードに産学官連携の取り組みを進めていくことが提案された。</p> <p>巧水(たくみ)スタイルは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民ひとりひとりが、水を大切にすることを、</li> <li>・国民の節水意識の向上を図るとともに、</li> <li>・節水機器・技術の普及を図る</li> </ul> <p>ものと考えており、このため、以下の活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巧水(たくみ)スタイルの普及・啓発</li> </ul> <p>節水意識の啓発を行うコミュニケーション活動を行う。具体的には、「水の週間記念シンポジウム」などのイベントをはじめ、様々な発信機会を捉えて全国各地で講演活動を行うなど、「節水意識」が向上・定着するよう展開していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・節水機器の普及</li> </ul> <p>節水機器の普及方策を検討する。          海外や地方自治体の先進事例や現状の課題を共有し、解決策を検討する。</p>		
課題分析	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「水は無限、水はタダ同然」という意識が強い。</li> <li>② 節水技術の進歩は目覚ましいが、水回りの機器更新サイクル期間が長く、家庭には節水性能の低い機器が多数存在している。</li> <li>③ 節水機器普及施策は一部自治体や業界の取り組みに限られており、国レベルの動きになっていない。</li> <li>④ 節水機器・技術を普及させるための業界横断的な組織がなかったため、節水の必要性訴求が進んでいない。</li> <li>⑤ 米国など海外ではすでに実施されている節水をキーとした体系的なインセンティブプログラムが国内に存在しない。</li> </ol>		
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2010年7月30日開催の「水の週間記念シンポジウム」の提案を踏まえ、チームを設立。</li> <li>・トイレや水栓を当面の活動対象とするが、今後、行動主体の拡大を図り、節水関連製品全般への波及を目指す。</li> </ul>		

注) 記述内容は様式1枚に納めてください。参考資料(図、写真等)は添付(複数枚可)してください。